

# 日本液体微粒化学会 投稿原稿割付見本 (会員の窓, 会告, その他用)

- 注1. 本書式に従って, 原稿は, A4版で作成する(上下20 mm, 左右15 mm マージン).  
注2. 原稿提出時, 図, 表, 画像の原本を所定位置に貼り込む.  
注3. 本書式は, 会員の窓, 会告, その他の場合の原稿割付見本である.  
注4. 特に指定しない本文の字体は, 全角文字: MS 明朝, 半角英数字: Times New Roman とする.  
注5. また, 用紙1 ページは, 28 字×55 行×2 段=3080 字相当とする.

[1 行目~3 行目は空行とする] (以降, 空行は9 ポイント, MS 明朝とする)

[4 行目と5 行目] **題名は14 ポイント, MS ゴシック, ボールド体で行の中央に書く.**

[副題は6 行目] **(副題は11 ポイント, MS ゴシック, ボールド体で行の中央に書く.)**

[1 行あける] (題名, 副題は1 行あたり140 mm 以内とし, 適宜改行する)

[著者名は10pt, MS ゴシックで行の中央に] 京都 太郎\*, 東京 花子, 仙台 次郎

[著者所属は9pt, MS ゴシック] 京都大学 東京大学 東北大学

[2 行あける]

## 1. はじめに

[1 行あける]

章番号および章名は, **10 ポイント, MS ゴシック, ボールド体**で行の中央に書く. 第2章以後は, 章番号および章名の前後と本文の間は1 行あける. ただし, 章や節が原稿用紙の最上段になった場合, 前の文章と1 行あけず, 第1 行目に書く. 本文は, 9 ポイント, MS 明朝で書く.

[1 行あける]

### 1.1 節名が2 行以上にわたる場合の書き方は, この例による

前の文章と1 行あけ, 行の左端より1 こまあけて節番号を書き, 1 こまあけて節名を **10 ポイント, MS ゴシック, ボールド体**で書く. 本文は次の行から1 こまあけて書く. 新しい段落は, 1 こまあけて書く. 文章の区切りは読点としてカンマ「,」を用い, 句点としてピリオド「.」を用いる(括弧を付して補足説明する場合, この例のように, 本文の句点の前に括弧を挿入し, 括弧内の文章の最後は句点を付さない).

句読点は, 1 こま分を使用するが, 行の最後の場合に限り, 追い込んでよい(禁則処理).

文献番号は, <sup>(1),(2)</sup>(カンマで区切る)または<sup>(3)-(10)</sup>のように書く.

#### 1.1.1 項名が2 行以上にわたる場合の書き方は, この例による

前の文章との間は空行を設けず, 行の左端より1 こまあけて項番号を書き, 1 こまあけて項名を **9 ポイント, MS ゴシック, ボールド体**で書く. 本文は次の行から1 こまあけて書く. 項以下の区分は, (a), (b), … などとし, その書き方は項の場合に準じる.

[1 行あける]

## 2. 図, 表の書き方

[1 行あける]

本文と図, 表の間は1 行以上あける. また, 図番, 図題は図の真下中央に配置し, 表番, 表題は表の真上中央に配置する.

[1 行程度あける]

原稿受付: 2017 年 1 月 28 日 ← 著者が原稿提出年月日を記入

\* 責任著者: 正会員, 京都大学 ← 会員資格, 所属  
(〒615-8530 京都府京都市西京区1) ← 住所

E-mail: ← 責任著者のメールアドレス

図題, 表題は日本語で記述する. また, 図番, 表番は, それぞれ図1, 図2, …, 表1, 表2…のように通し番号として, 9 ポイント, MS 明朝で書く. 本文で引用する際, 図1, 図2, …, 表1, 表2, …とする.

また, 図, 表はできるだけ下側および右段に寄せて配置すると, きれいに仕上がる.

[1 行あける]

## 3. 式の書き方

[1 行あける]

式は, 左端より3 こま以上あけて書き, 式番号は括弧を付して右端に書く. 数学記号, 単位は, 9 ポイント, Times New Roman とし, 数式の書体は, 以下のようにイタリック体にする.

$$a = b \sin \alpha + c \tan \beta \quad (1)$$

$$b = \frac{d(e+f)}{g+h} \quad (2)$$

ここで,  $a$ : 液膜の厚さ [mm], ……

分数を書く場合, 式(2)のような表記法を用いる. ただし, 本文中に記述する場合,  $d(e+f)/(g+h)$ のように書く.

[1 行以上あける]

- この外枠は, 表示しない.
- 図中の文字は, 英語で表示する.
- 文字の大きさは, 9 ポイント以上とする.
- 文字のフォントは, MS 明朝とする.
- 図番, 図題は, 図の真下中央に日本語で書く.
- 他の文献より転載した場合, 図題の直下に [文献 (1) より転載] 等と明記する.

図1 実験装置概略

← [脚注]

全角日本語: 9 ポイント, MS 明朝

半角英数字: 9 ポイント, Times New Roman

表 1 実験条件

- この外枠は，表示しない。
- 表中の文字は，英語で表示する。
- 文字の大きさは，9ポイント以上とする。
- 文字のフォントは，MS 明朝とする。
- 表番，表題は，表の真上中央に日本語で書く。
- 他の文献より転載したときは，表題の直下に [文献 (1)より転載] 等と明記する。

[1 行以上あける]

#### 4. 両段にまたがる図，表または式の場合

[1 行あける]

本文，図，表，式，脚注，文献などは，原則として本原稿用紙の 1 段（片側）に書き，2 段（両側）にまたがって書かない。ただし，図，表または式が 1 段（片側）に収まらない場合，2 段（両側）にまたがって書いてもよいが，この場合，表 2 のように当該ページの最下段もしくは最上段に配置し，本文が図，表によって中断されないように書く。

#### 5. おわりに

[1 行あける]

以上述べたように，本原稿用紙を用いて執筆する際に最も注意すべき点は，読者が読みやすいように配慮することである。

[1 行あける]

#### 文 献

[1 行あける]

- (1)京都太郎，仙台次郎：液化ブタン噴霧の特性，微粒化，10-5(2000)，145-148. ← [和文雑誌]
- (2)Johnson, R., Schmidt, P., Thompson, G.: Characteristics of Entrainment Spray, J. Atomization, 112 (2001), 28-30. ← [英文雑誌]
- (3)今出川一郎：微粒化機器の設計，京都書籍(1995)，79-82，103. ← [和文書籍]
- (4)Smith, T. A.: Mechanism of Atomization, London Pub. Inc. (1993), 34-39. ← [英文書籍]
- .....途中省略.....
- (10)日本微粒化学会編：微粒化の原理と実際，同慶出版会 (1991)，11-15. ← [和文書籍]

図，表が 2 段にわたる場合の書き方は，この例による。

表 2 供試液体の物性値

- 図，表が 2 段にわたる場合の書き方は，この例による。
- 図，表は，当該ページの最下段もしくは最上段に配置し，本文が図，表によって中断されないように書く。
- その他は，図 1 と表 1 に準じる。